

北海道浮魚ニュース

令和4(2022)年度6号

2022年6月24日

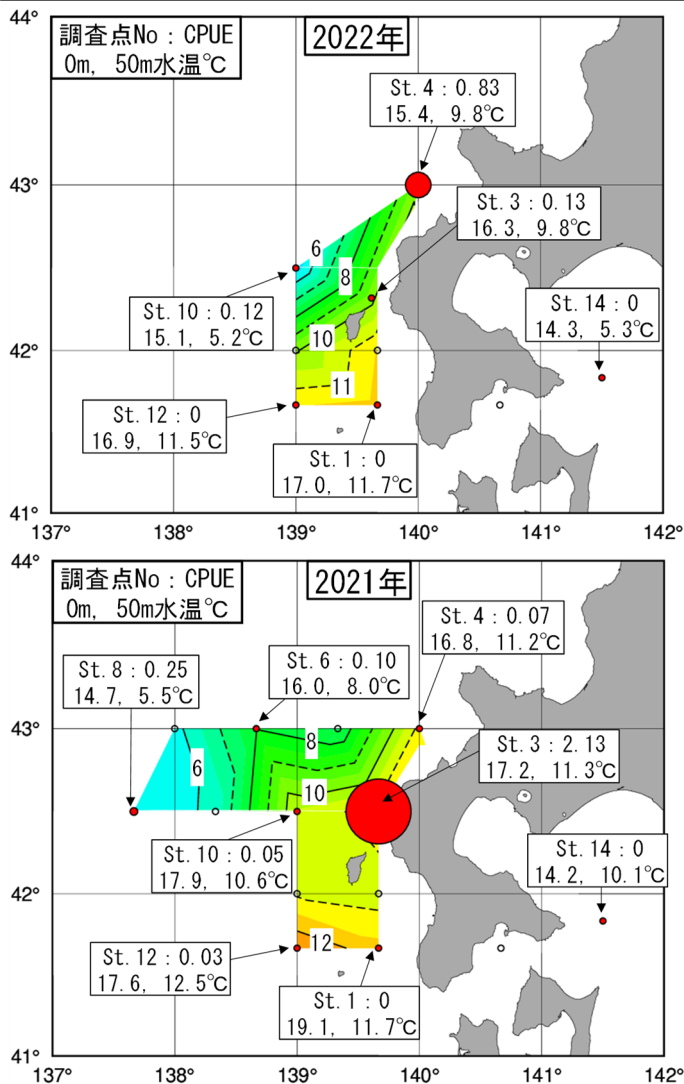
道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6月14日～21日の期間、北海道南部日本海および太平洋側の恵山沖で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は非常に低く、平均CPUEは2010年以降で最も低い値でした。
- ・スルメイカのサイズは昨年および過去5年平均より大型でした。



1. 水温分布(図1)

2022年の日本海側漁獲調査点5地点の表面水温は15.1～17.0℃(昨年7調査点:14.7～19.1℃)、深度50m層の水温は5.2～11.7℃(昨年:5.5～12.5℃)でした。

深度50m層では沖合からの冷たい水が昨年より沿岸寄りに張り出しており、水温は調査海域の北西側を中心に低くなっていました。深度50mで10℃以上の水温帯は、北緯42°以南では沿岸から東経139°付近まで分布していたのに対し、北緯42°以北では沿岸寄りに限られていました。

太平洋側の恵山沖(St.14)では表面水温が14.3℃(昨年14.2℃)、50m深が5.3℃(昨年10.1℃)でした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの水温分布図(上:2022年、下:2021年) 矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測のみの調査点(2022年のst.6と8の漁獲調査は中止)

2. 流向流速分布 (図 2)

本調査の航行中に ADCP 観測により得られた深度 50m の流向流速と水温分布を照らし合わせると、対馬暖流は奥尻島西方を北北東方向へ向かっていると考えられました。また、奥尻島南方で沿岸へ向かい、沿岸側では南東へ向かう流れが見られました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらをご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/>

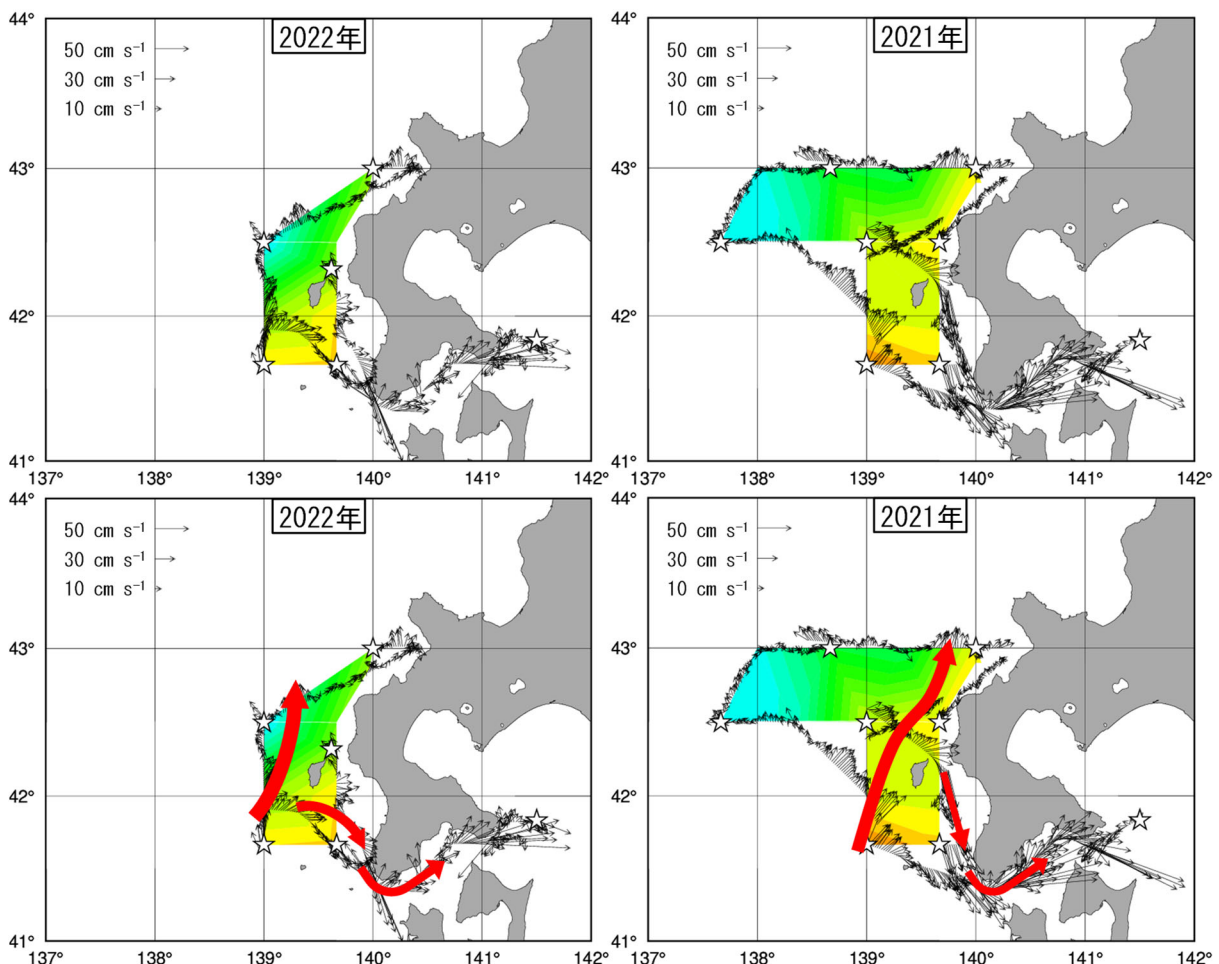


図 2 2022 年 (左) と 2021 年 (右) の深度 50m の流向流速と水温分布図
下段の赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点

3. スルメイカの分布密度 (図 1、3)

2022 年の日本海の漁獲調査点 5 地点における CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0~0.83 (昨年: 0~2.13) でした。CPUE が最も高かったのは岩内沖 (St. 4) の 0.83 で、それ以外の 4 地点は 0.2 を下回る低い値でした。漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 0.22 で、昨年 7 調査点の平均値 (0.37) 及び過去 5 年の平均値 (7.94) を下回り、2010 年以降で最も低い値となりました。

また太平洋側の恵山沖 (St. 14) では、昨年と同じく漁獲はありませんでした。

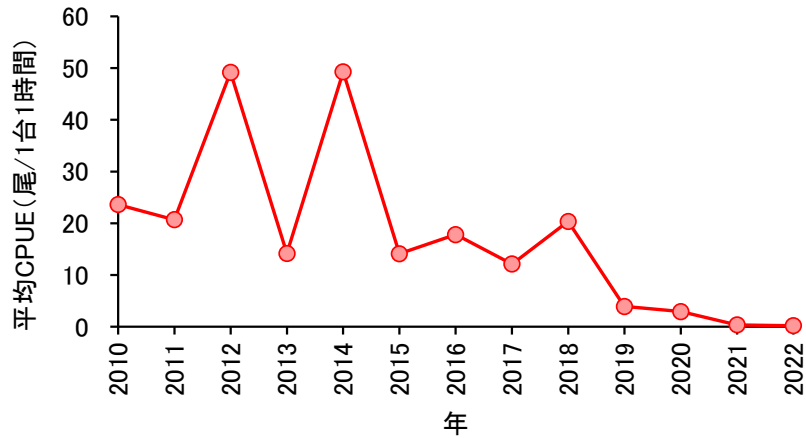


図3 漁場一斉調査における日本海の各調査点の平均 CPUE の推移

4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲された日本海側5調査点のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は12~19cm(昨年:10~18cm)、最も出現比率が高かった外套長(モード)は17cm(昨年:15cm、過去5年平均:16cm)、外套長の平均値は16.7cm(昨年:15.1cm、過去5年平均:16.4cm)であり、2022年の外套長組成は昨年および過去5年平均よりも大型でした。

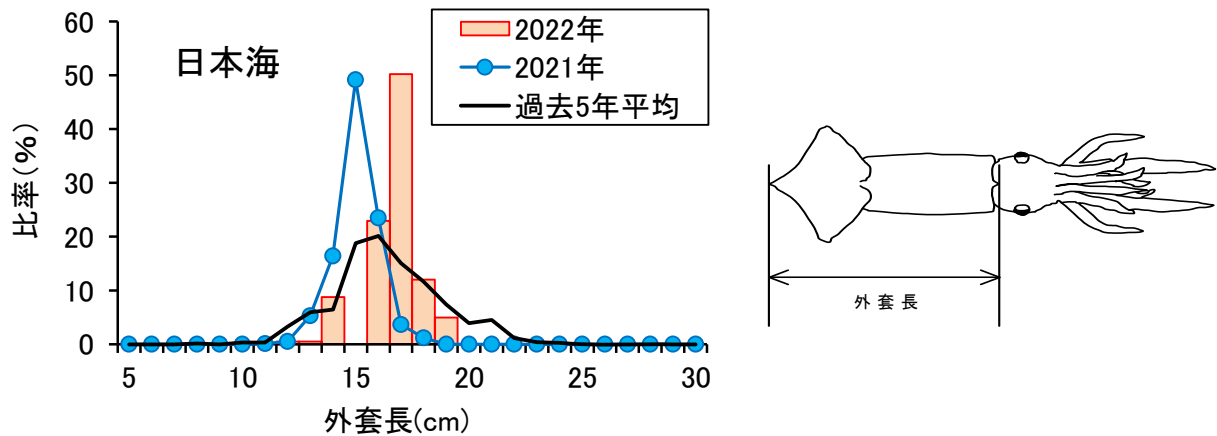


図4 日本海スルメイカの外套長組成

(函館水産試験場調査研究部 TEL: 0138-83-2893、FAX: 0138-83-2849)